

# 長島有里枝 × 竹村京「まえといま」

Yurie Nagashima x Kei Takemura; Now ⇔ Then

2019年7月13日[土]～ 9月1日[日]

群馬県立近代美術館

## プレスリリース

長島有里枝（1973- ）はデビュー以来身近な人をモデルや協働者に、社会における家族や女性のあり方を問う作品を発表し続け、2001年には第26回木村伊兵衛写真賞を受賞。文章の執筆や映像、立体作品の制作など、現在はジャンルを超えた活動をおこなっています。長島の母方の祖父母は群馬県高崎市出身で、短編集『背中の記憶』（2009年、講談社）には高崎の親戚の家で過ごした幼少期のエピソードや、大好きだった祖母の記憶が鮮やかに綴られています。長島はこれまでもその祖母が撮った古い花の写真を作品のモチーフにしてきましたが、本展では祖父母の遺品を使った新作も加え、家族それぞれが生きた時間と自らの現在を接続させます。

竹村京（1975- ）は2000年ドイツ、ベルリンに留学し、2006年にはシドニー・ビエンナーレに出品するなど同地を拠点に世界各地で活動を展開。写真やドローイングの上に刺繍を施した布を重ねた作品によって、失われたものの存在やその記憶をとらえています。2015年に帰国して高崎に居を構えた竹村にとっても、家族とそれにまつわる記憶は制作の重要なテーマです。今回は東京の実家の取り壊しと両親の高崎への移住を機に、東京と高崎、過去と現在をオーバーラップさせ、群馬で生み出された最新の絹糸も用いて記憶や時間の作品化を試みます。

それぞれ第一線で活躍する同世代の2人の作家の「まえ」と「いま」が高崎の地で交差し、個々の物語を超えて広がります。

**【展覧会名】** 長島有里枝×竹村京「まえといま」 Yurie Nagashima x Kei Takemura; Now ⇔ (and) Then

**【展示内容】** 写真と立体によるインスタレーション（長島有里枝）

写真、立体とテキスタイルを組み合わせた作品によるインスタレーション（竹村京）

**【会期】** 2019年7月13日[土]～9月1日[日]

午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

**【休館日】** 毎週月曜日（ただし7月15日、8月12日は開館）、7月16日（火）

**【会場】** 群馬県立近代美術館 展示室1

**【観覧料】** 一般610円（480円）、大高生300円（240円）（ ）内は20名以上の団体割引料金

\*中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名は無料

**【主催】** 群馬県立近代美術館、まえといま実行委員会

**【助成】** 公益財団法人 花王芸術・科学財団、公益財団法人 野村財団

**【特別協賛】** 有限会社 高橋農園

**【協賛】** 株式会社ニコン、株式会社ニコンイメージングジャパン

**【協力】** EBENSBERGER RHOMBERG、MAHO KUBOTA GALLERY、Taka Ishii Gallery

**【問い合わせ】** 群馬県立近代美術館 [担当] 田中龍也 E-mail: tanaka-ta@pref.gunma.lg.jp

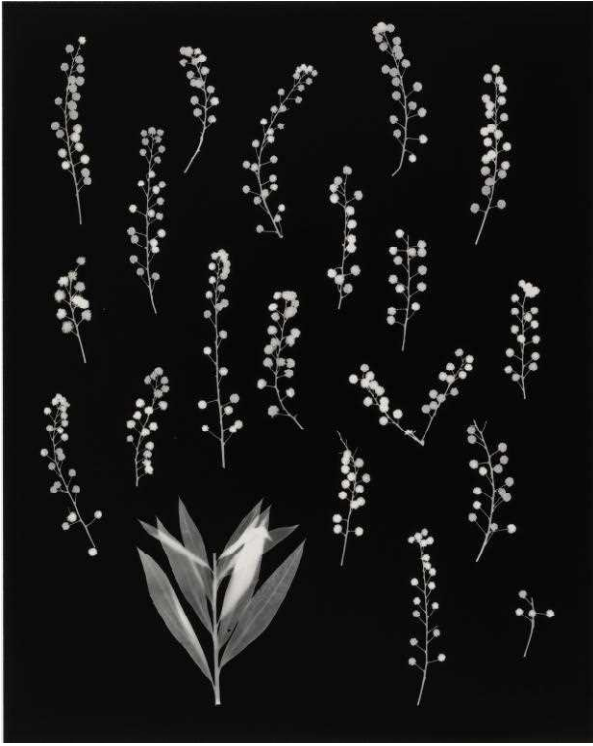
〒370-1293 高崎市綿貫町992-1 群馬の森公園内

TEL. 027-346-5556 / 5560 FAX. 027-346-4064 <http://mmag.pref.gunma.jp/>

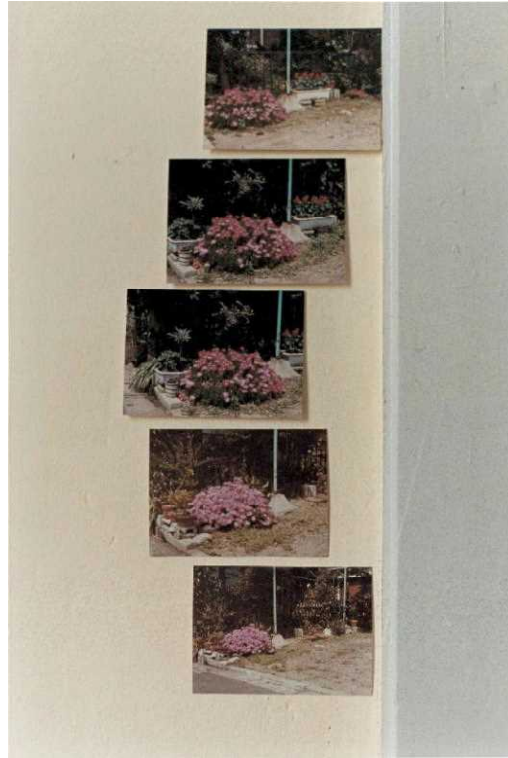
## 【主な出品作品】

長島有里枝と竹村京という2人の作家の過去と現在が交差する地、高崎において開催されるこの展覧会は、家族、時間、記憶など2人に共通するテーマに焦点をあて、本展のために制作される新作と、それに連なる過去作によって構成されます。

[長島有里枝]



1



2

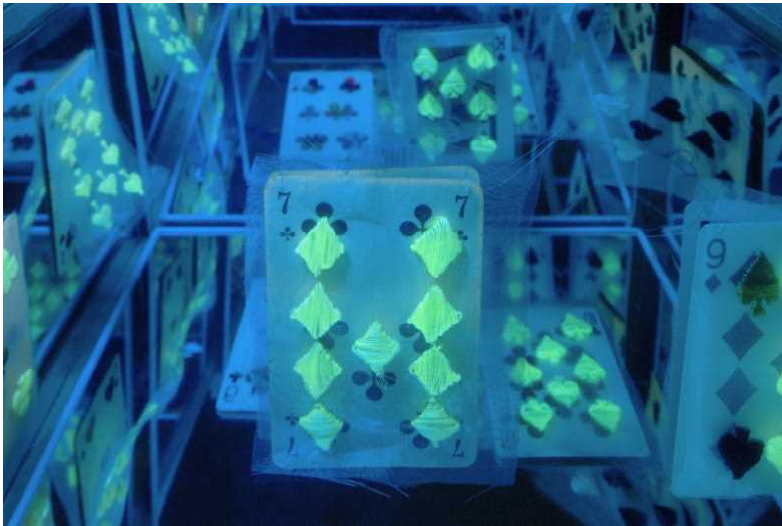


3

- 1 『過去完了進行形』より  
《ミモサ、アカシヤ》 2019年
- 2 『SWISS』より 《祖母の花の写真のインスタレーションショットNo.1》 2007年  
東京都写真美術館蔵
- 3 『I am You are Me』より 2014年 水戸芸術館蔵  
「拡張するファッション」展（水戸芸術館現代美術ギャラリー、2014年）展示風景

長島有里枝の新作『過去完了進行形』（図1）は、長島の祖母が遺した大量の押し花を印画紙の上に直接並べて焼き付けた作品です。種類ごとに丁寧に分けて保管されていた花卉や葉、茎などは、押し花絵画を作るための素材だったのででしょうか。長島は祖母がやり残した仕事を、この作品によって引き継いでいます。

長島の短編集『背中の記憶』（2009年、講談社）には、祖母の遺品の中から発見された庭の植物の写真をめぐる一文があり、それらの写真を長島が撮影した作品も今回出品されます（図2）。そのほか、祖父母の遺品を使ったインスタレーションが、祖父母の出身地であり、長島自身も幼少期からたびたび訪れていた高崎の地で展開されます。



4



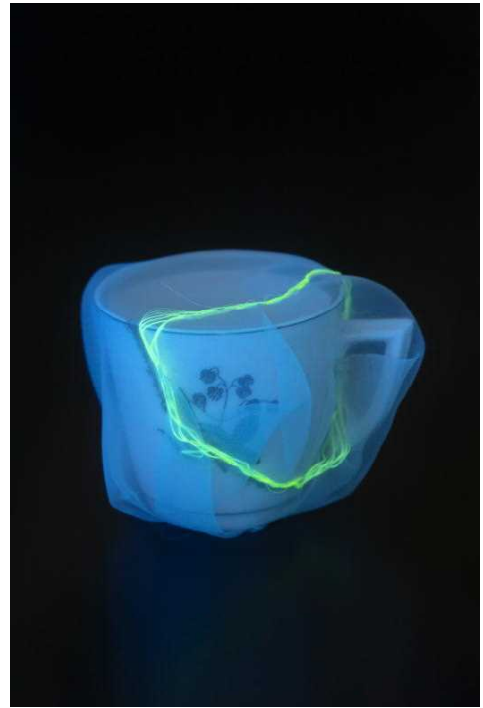
7

4 《Playing Cards in Mirrors》 2013-19年 [撮影：木暮伸也]

5 《修復された Y.N.のコーヒーカップ》 2018年

6 制作中の《Gone Ginkos in Tokyo and Takasaki》 2019年5月撮影

7 《Between Tree, Ghost has come》 2011年 [撮影：木暮伸也]



5



6

これまでも群馬県産の絹糸を作品の素材としてきた竹村京は今回、群馬県が改良を重ね世界で初めて実用的な繭生産に成功した「蛍光シルク」を用いた作品を発表します(図4、5)。《修復された Y.N.のコーヒーカップ》(図5)は、長島の母が金継ぎした長島のコーヒーカップを、竹村が透明な布でくるみ、継いだところを蛍光シルクで刺繍して「修復」した作品です。暗闇で不思議な光を発するこれらの作品はこれまでにない表現を生み出し、絹の新たな魅力を発信することにもなるでしょう。

竹村は今年、東京に暮らす両親を高崎に呼び寄せ、それにともない実家は取り壊されました。現在制作中の《Gone Ginkos in Tokyo and Takasaki》(図6)は、東京の実家と、高崎のお寺にあったイチョウを対比させた作品です。すでに切り倒されてしまった2本のイチョウの木には、長い時間の記憶とこれらの木に接した人の思いが染み込んでいたはずですが、竹村が感じ取った記憶や思いは、写真の前にかけられた透明な布に絹糸による刺繍で表現されます。

## 【関連イベント】

### ■オープニング・パフォーマンス 竹村京「Curtain for Opening」

7月13日（土） 14:30～ ゲスト・パフォーマー：安藤洋子（ダンサー）

会場：当館1階 ギャラリー [観覧無料・申込不要]

安藤洋子（ダンサー） 横浜生まれ。2001年、ダンス界鬼才の振付家ウィリアム・フォーサイスの目にとまり、アジア人として初めてフランクフルト・バレエ団（05年より The Forsythe Company）に入団。15年間ドイツに在住し、カンパニーの中心的ダンサーとして世界各国で踊る。その傍ら自身のダンスプロジェクト、ソロ公演、アーティストとコラボレーションをするなど個人としても精力的に活動。現在、日本とNYを拠点に、自己の身体表現を模索するとともに、経験を生かした芸術教育にも力を注いでいる。

### ■アーティスト・トーク 長島有里枝×竹村京

8月25日（日） 14:00～15:30

会場：当館2階 講堂 定員：200名（先着順） [聴講無料・申込不要]

### ■ワークショップ

#### 1 竹村京「あなたの大事な、壊れてしまったものについて」

8月4日（日） 13:00～16:00 対象：小学4年生～一般

#### 2 長島有里枝「拾ったもの、大切なものを日光写真に撮ろう」

8月18日（日） 13:00～16:00 対象：小学生～一般（小学3年生以下は保護者同伴）

会場：当館2階 アトリエ 定員：各20名 [参加無料・要申込]

### ■学芸員による作品解説会

7月24日（水）、8月10日（土） 各日14:00～15:00 [要観覧料・申込不要]

※各イベントの詳細、申込方法についてはホームページをご覧ください。

## 【作家プロフィール】

### 長島有里枝（ながしま・ゆりえ）

1973年東京生まれ。93年、自らの家族を撮ったシリーズが注目を集め、「URBANART #2」展でパルコ賞を受賞。95年武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科卒業。98年、文化庁新進芸術家在外研修員としてアメリカ合衆国に留学。99年、California Institute of the Arts ファインアート科写真専攻修士課程修了。2001年、蜷川実花、HIROMIX とならび第26回木村伊兵衛写真賞受賞。10年、『背中の記憶』で講談社エッセイ賞受賞。15年、武蔵大学人文科学研究科博士前期課程修了。17年、東京都写真美術館で大規模な個展「長島有里枝 そしてひとつまみの皮肉と、愛を少々。」が開催された。

### 竹村京（たけむら・けい）

1975年東京生まれ。98年、東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業。2002年、東京藝術大学美術研究科修士課程絵画専攻（油画）修了。04年ベルリン芸術大学（ローター・バウムガルテン研究室）卒業。04-07年文化庁芸術家在外研修員。その後15年までベルリンを拠点に活動。06年、第15回シドニー・ビエンナーレ、08年「アーティスト・ファイル 2008 -現代の作家たち」（国立新美術館）出品。近年の個展に、16年「なんか空から降ってくるよ」（タカ・イシイギャラリー 東京）、18年「どの瞬間が一番ワクワクする？」（ポーラ美術館 アトリウムギャラリー、箱根）がある。現在高崎在住。